

（午後1時1分 再開）

○議長（中上良隆君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番10、11番 岩田君。

〔11番（岩田弘彦君）登壇〕

○11番（岩田弘彦君）それでは、ただ今議長のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問を行います。質問項目は大きく2項目です。

まず1項目、わかりやすい「市民目線」の情報についてです。私は、基本的に難しいことをよりわかりやすく簡単に説明できる人がすばらしい、言い方を変えますと、難しい言葉を使う人は、説明ようしない人が難しい言葉で逃げていると、そういうふうに解釈しておりますので、その観点から3点質問させていただきます。

①「市民目線」でわかりやすい財政の情報公開を。

今議会に上程されている19年度決算において、実質収支額は黒字決算となっているが、貯金を取り崩しての黒字である。市の広報への決算報告については、私が提案させてもうて以来、「一般家庭の家計に例えてみると」の掲載方法をしていただいています。今回よりさらに積極的に合併当初年度からの比較、借金、貯金の推移、それを住民一人当たり額にて同じようにわかりやすく、また類似団体との比較も含めて掲載していただきたい。もう一点、公営企業会計、特に病院会計についても非常に難しく、市民の皆さんからどうなっているかわからないという声をよく聞きますので、それについても行っていただきたい。

②わかりやすい・使いやすい「市民目線」

のホームページを。

人生のさまざまな節目に市役所は大きなかわりを持っていることから、ちょっぴり人生ゲーム風に届け出、申請、サービスなどについて、「こんなときには、手続き・サービス早見表」をトップページにつくっている市がある。そこから入り、「結婚したときは」、「めでたく妊娠したときは」、「赤ちゃんが生まれたら」、「毎日一生懸命育児をしているときは」、「保育園幼稚園に入るときは」など、人生の節目節目が設定されており、そこをクリックすると関連の情報が出てくる仕組みになっている。これはとてもわかりやすく親切であり、本市も組み入れてはどうか。

③市民病院のバス停に、利用者目線の「親切案内看板」を。

これにつきましては、今、総務委員会のほうでバスに全員委員が乗りましてやっついで、市民病院を訪れたときに非常にわかりにくくて困っている人がおったということで質問させていただきます。市民病院のバス停には、路線バス、送迎バス、コミュニティバス等が集中しており、おのおの詳しい路線図、時刻表はあるものの、悩んでおられる方をよく見かけます。「何々地区へお帰りの方、行かれる方は、何時何分のこのバスが便利です」や、「こんな方法があります」など、利用者目線の親切案内看板を設置してはどうですか。

次に2項目めであります。ひと・自然・歴史が調和する職住近接型のまちづくりを目指す橋本市として、南海高野線の橋本－難波間の時間短縮についてはどのように考えていますか。

今、商工会議所の新体制におきまして、会頭が旗を振りまして全力で取り組んでいるそ

うでございます。それにつきまして、本市への経済波及効果が大きく期待できる、私もそう思っております。新体制の橋本商工会議所では、「橋本－難波間30分台」を目標とし、副会頭を南海電機鉄道株式会社より招き、実現に向けて取り組んでいるとのこと。職住近接型のまちづくりをめざす橋本市としても、力を合わせ積極的な取り組みをすべきではないでしょうか。

以上、1回目の質問を終わります。答弁をよろしくお願いします。

○議長（中上良隆君）11番 岩田君の一般質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（吉田長司君）登壇〕

○企画部長（吉田長司君）橋本市のホームページについてのご質問にお答えいたします。

ホームページは、いつでもだれでも利用できる、市民生活に役立つ情報を迅速に伝えることができる利点を持っており、その重要性はますます高まっていると認識いたしております。橋本市のホームページは、平成18年3月1日の合併を期に、新たな橋本市ホームページとして公開を開始しました。このホームページは、古いパソコンの機種にも対応できるよう、またホームページを見るための各ブラウザの違いにも対応できるようシステムが構成されています。ホームページの作成は各課で行うことができ、高齢者や障がい者など、だれに対しても情報がきちんと伝わり利用できる機能、いわゆるアクセシビリティやデザイン指針を遵守したサイトが作成できるよう、新しいシステムを導入いたしました。

ホームページのトップページは、できる限りシンプルな構成のページづくりをめざして作成したところでございます。結婚・出産・入学・介護・死亡などの人生の時々合った情報は、トップページ上の「くらしのガイド」

の中で紹介しています。また、ごみの収集日程や健康カレンダーなどの生活に密着した情報も「便利帳」としてトップページに記載しております。

しかし、議員おただしのように、「結婚・出産などライフイベントごとの入り口がわかりにくい」、「ダイレクトに入っていけない」、また「関連情報が少ない」などのご指摘をいただいておりますのも事実でございます。今後、現行のシステムを踏まえた上で改良に取り組み、市民の皆さまが見やすく利用しやすいホームページを作成してまいりたいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

次に、橋本－難波間の時間短縮についてお答えいたします。

本市では、だれもが住み続けたいような魅力ある地域を形成し、定住する人を増やし、地域の活力を維持する方策を確立することが市政の重要課題であります。そのため、「橋本市元気なまちプロジェクト」として、企業誘致、地場産業育成、起業家支援といった事業を効果的に組み合わせて実施することで「元気なまち橋本市」の創出に取り組んでいるところであります。このプロジェクトの核となり得るのが企業誘致であります。企業誘致のためには交通アクセスが重要であり、ご質問の商工会議所が南海高野線の「橋本－難波間30分台」を目標に取り組んでおられることにつきましては、鉄道での大阪方面から、また大阪方面へのアクセスがより便利になることで、橋本市のイメージアップにつながるのと同時に、近い将来、大阪方面から鉄道で橋本エコヒルズへの通勤客が橋本－難波間30分台を利用する可能性もございます。

本市といたしましては、企業誘致推進の助力になることや、大阪方面から、または大阪方面への利便性向上など、橋本－難波間30分

台の実現に向け、商工会議所とともに南海電気鉄道に対して強く要望していきたく考えておりますので、ご理解賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（中上良隆君）総務部長。

〔総務部長（中山哲次君）登壇〕

○総務部長（中山哲次君）それでは、次に「市民目線」でわかりやすい財政情報の公開についてのご質問にお答えをいたします。

平成19年度における一般会計の決算につきましては、歳入歳出差し引き2億4,237万3,158円の黒字であり、このうち翌年度へ繰り越すべき財源8,517万3,000円を除いた1億5,720万158円が実質的な黒字となっております。しかしながら、この黒字は財政調整基金や減債基金合わせて5億4,000万円を取り崩しての黒字であり、前年度の基金取崩金7億9,000万円と比較すれば2億5,000万円減少しているものの、依然として厳しい財政状況であることには変わりはありません。

議員おただしの市広報への決算報告につきましては、平成17年3月議会において、岩田議員の一般質問の中で、一般家庭の家計に例えた掲載方法をご提案いただいたものであり、同年広報11月号で旧橋本市の平成16年度決算をこの方法で掲載いたしております。

今後も引き続き厳しい財政の現状を市民の皆さまに正確かつわかりやすくお伝えするために、昨年度と同様、一般家庭の家計に例えて掲載するとともに、限られたスペースの中ではありますが、合併初年度からの比較や住民一人当たりの市債額及び基金残高なども掲載できるよう工夫してまいりたいと考えておりますので、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

○議長（中上良隆君）病院事務局長。

○病院事務局長（尾崎慶和君）続きまして、病院事業会計における「市民目線」でわかり

やすい財政の情報公開についてのご質問にお答えいたします。

公営企業会計と官公庁会計との相違については、公営企業の事業年度は地方公共団体の会計年度によっていますが、その会計方式は企業会計方式によっており、官公庁会計方式に見られない多くの特徴を持っております。官公庁会計では、現金の収入及び支出の事実に基づいて計理記帳される現金主義会計をとっているのに対し、公営企業会計では、現金の収支の有無にかかわらず経済活動の発生という事実に基づき、その発生の都度記録し整理する発生主義会計方式をとっています。したがって、例えば物品の購入の場合、官公庁会計では、現金を支払ったその時点において支出として会計記録がなされるのに対し、公営企業会計では現金の支払いがなくとも、その債務が発生した時点、すなわち通常物品の納品の検収を行った時点において費用として計上記録されることとなります。

以上のような相違点から見ましても、一般会計とは異なり、「市民目線」で指標を示すこと、すなわち家計簿に置きかえた指標を示すことは困難と考えますが、広報による19年度の決算報告については、公立病院改革ガイドラインで公表が義務づけられています。経常収支比率、職員給与比率、病床利用率等を加えた中で、民間病院との比較である医業収益と医業費用の差異及び企業債残高及び一時借入金残高等を明示し、今後の病院経営の展望を加えた中で、市民の目線に立ったわかりやすい内容として公表してまいります。

次に、3番の市民病院のバス停に、利用者目線の「親切案内看板」の質問にお答えいたします。

議員おただしのとおり、市民病院のバス停には、路線バス、送迎バス、コミュニティバスが乗り入れており、路線図、時刻表が同じ

掲示箇所に張られている現状にあります。今後の対策といたしましては、一目でどのバスに乗れば早く目的地に着くのか、わかりやすい時刻表の設置を行い、また路線図についても3路線が一つとなった看板を設置できるよう考案してまいりたいと思いますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）11番 岩田君、再質問ありますか。

11番、岩田君。

○11番（岩田弘彦君）まず、わかりやすい「市民目線」の情報の①、一つ、類似地との比較も含めてということで質問させていただいたんですけども、その類似団体との比較というのはどのように考えていただけるのかなということで答弁をお願いします。

○議長（中上良隆君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）広報のスペースという問題もあるわけでございますけども、限られたスペースの中で類似団体の数値も掲載できるよう努力してまいりたいと考えております。

○議長（中上良隆君）11番、岩田君。

○11番（岩田弘彦君）はい、ありがとうございます。しますしますの答弁なんで、再質問しにくいんですが、わかりやすい情報をよりわかりやすくなぜしてほしいのかといえば、けさからもありましたけど、財政健全化比率の基準とかがあって公表されていますけども、これは健全化せなあかんやつの基準なんで、そこから離れとるさかいと気楽にしとられへんわけですわ。いまだ財政状況が変わらへんので。だから、国も基準を厳しいすると国が面倒見なのなるさかい、結構おれは甘いと思ってますんで、まずは住民の皆さんにわかりやすくてということで、この質問をさせていただいております。

一つ、この説明のところにページが1ページ増えても、財政課長の腕でいきますと、去年の11月の家計簿を見させていただいたら非常に上手に書いていただいておりますので、よく今、国のほうでプライマリーバランスの黒字化2011年とか言うてますが、私は国の言うてるプライマリーバランスは間違っていると思っておりますんで、国の言うてるのは、単にその年に返した借金分新たに借金してもええよみたいなプライマリーバランスの考え方ですが、そうじゃなくて、基金を取り崩さずに借金をちょっとでも減らしていく方向をとっていくという方向を橋本市は持っていないと、何が心配するって、きょうもけさありましたけども、市長がおっしゃっていましたが、人口が減っているわけですね。借金がちょっと減っても人口の減りのほうが大きかったら、一人当たりの借金は変わらないわけですね。一人当たりの負担はいつもかわらんとそのままいってしまうという状況にあるので、その辺も踏まえて一人当たりの数字を出していくと減ってるのか減ってないのか、借金についてはよくわかるし基金についてもよくわかるなということなので、日頃、財政課長がプライマリーバランスについて国と違う方向性の、おれは財政課長のほうを支持するんですが、説明されてますので、その辺の市の考え方というのも一緒にわかりやすく載せたいってほしいんですよ。

まず、今、健全化でめざしている方向性の部分をここで説明していただいて、それをわかりやすく、また一緒に広報のほうに載せていただきたいんですが、これからの方向性ということで。よろしく申し上げます。

○議長（中上良隆君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）まず健全化判断指標につきまして、今回、冒頭に市長の提案説明の中でも報告をさせていただいたわけでご

ございますけども、確かに数値的に見ていただければ、まだまだ大丈夫だというような数値でございます。イエローカード、レッドカードになるような数字ではございません。しかしながら、実際に財政の現状を見てみますと、総務部長が答弁で答えた中でも、黒字であっても基金を取り崩して黒字となっているという状況から見ますと、やっぱり財政状況というのは依然として厳しいものがあるというように私どもは思っております。

プライマリーバランスの話が出たわけでございますけども、プライマリーバランスといいますのは、国でいいますと基礎的財政収支のことをいうわけでございますけども、歳入から国債などの借金を引いた分と、それから、歳出ではその国債の借金の元金の払いを除いた分で差し引きした額がプラスかマイナスかというのを数値的に見るのがプライマリーバランスと言われるものでございます。本市に国の考え方のプライマリーバランスを当てはめて計算しますと、平成19年度一般会計でいいますと、同じような考え方でいいますと1億3,280万8,833円が赤と。ということはプライマリーバランスがとれていないということになるわけです。ただし、その起債の中には合併特例債を活用して地域づくり基金へ積み立てを行っておりますので、それはいつも使わず、借金をしているけども、それ以上の積み立てを行っているという考え方から見ますと、それを除くということになるんですけども、それを除いた場合にプライマリーバランスがどうかということで試算いたしますと、逆に7億2,719万1,167円の黒字ということになりまして、プライマリーバランスがとれているというような結果にもなるわけです。

ただ、その数値だけでプライマリーバランスがとれているかということで判断しますと、国の考え方でいうプライマリーバランスとい

う考え方でいきますと、プライマリーバランスの収支はとれているというふうには考えられるわけでございますけども、実際、基金を取り崩して黒字にしているということは、資金不足の状態になっているということでございますので、私ども財政課といたしましては、その資金不足がある以上はプライマリーバランスはとれていないという考え方に立っております。今、取り組んでおりますのが、財政調整基金、減債基金等を取り崩さなくても歳入歳出の収支が合うということで、3年間をかけて6億円の経常的一般財源を削減しようという計画で現在進めておるわけです。国とのプライマリーバランスの考え方の違いというのは、私どもは今言うたみたいに、資金収支不足が解消できてはじめてプライマリーバランスがとれたというように考え方を持っております。

以上が私どもの考え方でございます。

○議長（中上良隆君）11番、岩田君。

○11番（岩田弘彦君）今、何でそない聞いたかというたら、今、自民党の総裁選挙とかやってますやん。そのときにプライマリーバランスが黒字化にするんや、上げ潮派や何派やとかと言うとるさかいに、そっちの情報のほうが先行されてしもて、それは決してうちの市にとってはおうてないんで、これをどないか上手に、上手にといても難しいけどね。そやけど課長の腕やったらできると思いますので、上手に載せてあげてください。

それともう一点、病院会計のほうなんですけど、難しいのはどえらいわかっています。わかっているんやけど、もう簡単に今年このぐらいの売り上げがありました、今年このぐらい市とか国から助けてもらいました、今年このぐらい借金しました、今年このぐらい借金返しました、建物につきましては、あとどのぐらい借金残ってますんで、このぐらい返し

ていかなんです、どうしても移転とかで現金のほうでも運転資金のほうでもいろいろ焦げついたところもあるかわかんけども、その辺については健全化債を借り入れて健全に向かっていますぐらいの、わかりやすい、そういうふうなのを載せたってほしいんです。それが難しいのはわかっています。先ほども言わせてもらいましたが、難しいやつでも石井さんと尾崎さんやったらできると思うんです。ぜひともそない書いたってほしいんですが、どうですか。

○議長（中上良隆君）病院事務局長。

○病院事務局長（尾崎慶和君）市の広報につきましては、掲示する箇所も限られておりますので、今、岩田議員がおっしゃられたような内容に沿いまして、決算監査終了後、来年の1月の病院だよりに2ページほど割きまして、そのような内容で掲載させていただきたいと思えます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）11番、岩田君。

○11番（岩田弘彦君）ありがとうございます。どうかよろしくお願いします。

財政のことばかり言うて申しわけないけど、病院長にはやっぱり命を守るという医療のことに専念してもらえて、経営のほうはお二人が頑張っただけかというのが一番ええ医療ができると思えますので、その辺もお願いということできさせていただいて次の質問に行きます。

次に2番目のホームページでございます。合併のときに新たにホームページをつくりましたということで、現行の中で工夫します、ご理解くださいというお話やったんやけど、このホームページについては、もう私だけと違います。13番議員も積極的に質問させてもらうんで、今回、より具体的に私は質問させてもらったつもりです。人生ゲームのよう

になっているところのやつも、部長とか課長にもカラー写真のやつを渡してもうたと思いますが、どこが違うかといえば、例えば「ライフイベント」とか「くらしのガイド」とかがあるのはわかっるとるんですよ。そこから入っていく、第一番目にインパクトがないんで、ライフイベントって何なのよみたいな。ほんで「くらし」を開けると、ぽっぽっぽっとならぬほうに何やかんやと項目、整理もされずに並んでいるような感じで並んでるでしょう。そこからまた入っていったという。

これはだいたい人口6万人ぐらいの財政規模、財政力指数0.5、類似団体、前も言わせてもうたけど、七尾市の例ですが、だいたいうちと似てますわ。これは人生ゲームみたいになつとるわけですね。ずっと行くと、ぽっとならぬと、仮にここの「子育て」とかというところを押すと、みんなに配ったらよかつたんだけど、またこういうかわいらしいページがぴっと出てくるねん。ここに何が載っているかというたら、「妊娠したら」、「赤ちゃんが生まれたら」、「楽しく子育て」、「地域における子育て支援」、これは教育長のしたいことや。「子どもを預ける場所は」、「その他の保育サービスは」、「ひとり親家庭への支援は」、一個一個またここにあるんですよ。その次に「知ってお得な情報」まで載って、どえらい親切。それをぽっとクリックするでしょう。ほんなら、「楽しく子育て」やったら、こういうのがありますよとみんな載つとるわけ。これは3ページぐらい載つとるわけやね。いろいろありますよ。「プレミアム・パスポート事業」、こんな一般質問いっぱいせんなんと思ひながら。「親子ふれあいランドあい・あい・あい」とかね。まだありますよ。育児用品のリサイクルショップでこんなあるよとか、こんなまで到達するわけですよ。これは楽しくてクリックをぽんぽんぽんとしていくと、

こんかいの情報があるわけ。これはまだありますよ、「悩んだらまず相談」と。「すすく相談」、どこで何時にやってますとか、「育ち合いサポート」、どこで何時にやってますとか、みんなあるわけですよ、これ。ずっと載っている。だから、その窓口からぶっと入るだけでこんかいの親切情報が出てくる、楽しく出てくる、ぽっぽっぽと。全然違うでしょう、うちのホームページと。

私の言いたいのは、ホームページに関しては、年代的に言うて市長の理解は難しいと思うんよ。僕らの世代から下違うかなと思うんよ、やっぱり世代的に言うたら。それは理解はされてますよ、市長のことやさかいに。そんなときは側近がサポートしたらなと思うんよ。だから、これはもう思い切って変える。お金かけらんでも変えられる方法はあると思うんです。

ちなみにほかのところやったらホームページビルダーで自分でつくったり、悪いけどうちの職員に立派な人おるで。詳しい人もおるで。工夫は何ぼでもできるはずや。1年前ぐらいからホームページの質問をみんなしてくれて、このバナー広告については、これは中西議員がやられて、こないしてきちんとやっておられますけど、そこからの進展って、ここ最近までほとんどなかったんや、これ。今でこそこういうのがぼんぼんぽんとできていて、しているけど。だから、ホームページって、商売で使うてるホームページは、いかにお客さんを魅力的に引っ張り込むか。毎日更新していったり、いろんな情報を入れていったりするという、そういうふうにしていて見てもらう。

それと、もう一個あるのは、僕らの世代から少なくとも下は、こういう情報のとり方をするんですよ。すると、情報が入って市の窓口に来てくれら仕事が楽なんちゃうん。きち

んとした上手な情報を知ってから。だから、特にここへ出しているのは、子育て世代のことを出させてもうたけど、今の子育て世代の人といたら携帯メールとかホームページとかを見えていますよ。だから、それを見ている情報を知って、ある程度基礎知識を入れて窓口へ来て、窓口の説明が親切というのは市民の皆さんは言うてます。親切にしてもらおうとやりやすいと。だから、IT時代の、ほんまのこれは橋本市の顔であり玄関ちやうの、ホームページって。費用対効果でいうても、ある程度かけても、よりええもんにしてもええんちゃう。私が言うてるだけやったらええねんけど、ほかの議員も皆質問してませんか、今までに一般質問で。市民の方からも声があるんやさかいに。その辺もっと積極的に、やっぱりIT時代なんですよ、時代は。ということで、部長、答弁よろしくお願ひします。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）評判のよろしくないホームページだということは認識してございます。何がよろしくないかといったら、一番言われているのが階層が深いということで、目的に達しにくいということでございます。きょう提案された表現の方法というんですか、わかりやすいというところまでは、今のところは考えてないわけでございますけども、階層の深いのを何とかしていこうということで取り組んでいるのが、18年から少しずつバナー広告も含めて、19年度は橋本市の市議会とか、そういう窓口をトップページに出したというような状態でございます。先般につきましても、ふるさとの応援寄附金のページとかも出してございます。

うちのインターネットのホームページの弱点、システム的な弱点の中で、合併のときに仕上げたホームページが、システムの基本ソフトの中で字の形とか基本構成が組み込まれ

ているという状況がございます。ということで、市販のホームページビルダーとかいうことでしたら、だれでもさわれるわけでございますけれども、システムの中に入っていかなければいけないということで、職員がそのところをようさわれないというところがございます。

今現在やおっていますのが、深い部分のリンクを張ることについては職員もできますので、できるだけトップページにリンクを張っていくような形で、トップページの中にあるような見出しをつけていって、もう八百屋みたいにやっていこうやというような形で考えてございます。そういうことで、職員の直営の中では取り組んでいこうという考えはございますけれども、基本的なところまでさわるということで、昨年も一部だけでも変えていこうかということで見積もりをとったわけですが、200万円程度かかっていくということもございました。そういうことで、予算の関係もございましたので流したような経緯もございますけれども、これだけ人気がいいということでしたら考えていかなければ、失礼しました、これは安易的に言いましたけれども、いろいろな反響がございますので、私の中でどうにか予算をつけていけるかいけないかも含めまして検討していきたいというふうに考えてございます。

ということで、七尾市の例えばの例のような形のものは、新しく今のシステムの中へ、それだけを入れるということだったらできますけれども、全体的にそれをやっていくということになったら基本的な部分を変えていかなければいけない部分もございますので、その辺についてご理解をお願いしたいというふうに考えてございます。

○議長（中上良隆君）11番、岩田君。

○11番（岩田弘彦君）私は市の職員の中にI

T管理について詳しい職員がいてると信じてますので、その力量を信じまして、今ある中でまずは前向きに改革をしていくと。いつ変えてもええわけですよ、職員に変える能力があるんやったら。どんどん変えていって、しまいにええようになると思うんよ。それをやっていただけると。

それと、予算的なものにつきましては協議していただいて、費用対効果というのがあるとは思いますが、その辺もわかるんですが、100万円、200万円のことでしたら、私個人の意見ですが、このホームページにそれだけの予算を投入しても橋本市の優先順位からいえば当然やなというふうに理解します、IT時代ですので。その辺は市長の判断ですので、どういうふうにするかもわからない状態でできませんので、前向いて検討していただけるということで。副市長、何かご意見ございましたら、どうぞ。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）確かに100万円、200万円というお話が、そういう考え方もあるんですけども、私は今の橋本市のホームページの、いわゆるパッケージ購入しているんですけども、その枠自体が、本当にそれがいいのかどうかという、そこのところが非常に疑問も感じております。その枠自体に非常に制限が設けられておりますので、思い切った見直しができないと。変にさわればいろんなところに影響が出てくる可能性もあるということで、結局はなかなか、本当に小手先の修正というか、そういう部分でしか手をつけられないというのが現状でございます。

私も皆さん方と同じように、職員も感じているんですけども、確かにうちのホームページは見にくい、これは私も感じております。その中で何とかならないのかという中で、抜本的に見直していこうと思ったら1,000万円

からの、そうしたデザインも考えて、それぐらい投入していかないと本当に見やすいものにはなつてこないのかなと。そこらは本当に研究していかないと、せっかくお金はかけたわ、やっぱりあかんだわということもありますので、皆さん方のご意見を踏まえて本気で勉強・研究したいと思っておりますので、もう少しお時間いただきたいと思っております。

以上です。

○議長（中上良隆君）11番、岩田君。

○11番（岩田弘彦君）そしたら、現状の中で職員が頑張つて工夫していただけると、それはもう間違いないということで、枠ごと変えるということにつきましては、予算の関係もありますので、その辺は待ってくださいということですので、楽しみに待たせていただきますので、どうかよろしく願いいたします。

そしたら、次に3番にいきます。3番の質問はごく簡単な質問なんですけど、私は心配したことが1個あったんです、質問で。路線バス、送迎バス、コミュニティバスといったら、これは路線バスはりんかんバスでしょう。送迎バスは市民病院、コミュニティバスは市長部局の中に担当があると。これは三つどもえになってまたどないなるのかなと、だれがこれに答えんのやろな、どこが責任持つんやろな、責任逃れするんちゃうのかなと思ひながら、簡単なことなんですけども、そういう心配をしておりましたが、病院が一番最初に電話をかけてきてくれました、どういうことですかということで。私は一種うれしかったんです。簡単に考えて、ここの市民病院のバス停は市民病院のお客さんのためでしょう。お客さんのために親切にするということで、病院が先に電話をかけてきてくれたので、答弁から言いますと、積極的に全路線をわかるように案内看板、僕はこれが一番やと思うんです。ぱっと一目で見たら、この路線はこ

っちへ走っていますと。今やったら縦割りやからね。これはここ走っています、これはここ走っています、これはここ走っています、三つを組み合わせるとせんなんさかい、これがわからへん。

それは今、答弁が返ってきましたので、よろしく願いいたします。私は感謝しております。ありがとうございます。

そしたら、再質問なしで次の2番に行かせていただきます。

先ほどの答弁の中で、イメージアップにつながる企業誘致のエコヒルズ、企業誘致の中で勤める人も来てもらえるとかって、いろいろなお話で、会議所と一緒に協力してやりますよという前向きな答えをいただいたんですが、これにつきまして、非常に私自身として思っていることがあるんですよ。というのは、難波と橋本間、それと難波と関空間は、距離にしたら約43km前後で、だいたい似ているんですよ。そやけども、急行の時間についても、それは線路が曲がるとのか真っすぐなのかわかりませんが、地図上で見るとさほどそない差はないような感覚の中で、やっぱり10分、15分の差があると、同じ急行でもね。その中で努力をすればできるのではないかというのはありますし、もう一点、私は大学のときに南海電車で通っていましたので、とまる駅が二つ増えてますやろ。金剛と天下茶屋か何かが増えてますでしょう。それと特急も走るとるんですよ。特急でだいたい45分、朝の急行で55分ぐらいかかってますわな、データを見ますと。ほんなら、梅田からは阪急京都線を通ってましたけど、特急でも各停でも値段一緒なんよ。好きなの乗ってというやり方をしとるわけですよ。

それともう一点、まだあるんです。過去に、名張の向こうやったかな、桔梗が丘。うちと比べてどえらい遠いんちゃう、桔梗が丘のほ

うが。何か知らんけど、大阪で聞くと橋本市より向こうのほうが便利ええのでみたいな話。それはやっぱり近鉄が上手なところかなというのがある。開発されているのでも、橋本市にやっぱり宅地は多いんですよ、南海は。だから、その状態やったらもっと橋本市に、朝の間だけでも構へんと思うよ、新快速ってありますでしょう、大阪ー京都間。別に私は橋本市がよかったらええので、そのために議員になっているので、大阪へ入ってからとまってもらわんでも構へんねん。和歌山の次は難波でも構へんし天下茶屋でも構へんわけです。そういうのを1本でも構へんやん、走ってもうても。そういう方法もあるし、これは橋本市は言いにくいさかい私が言うときます。そういう方法もいろいろあるので、これは私は本気になって市としてもやっていくべきやと思うんよ。

インパクトとかってありましたけど、朝からありましたけど、人口減少時代で人口減ってますって言うてますやん。去年の暮れに東京で、いつもセミナーを受けているところであつたんですが、有名なシカゴという市があつて、ちょうど大阪市を核とする近畿地方全体みい感じのまちづくりになったときに、どうなっているかといったら、独身の若者、ほんまのいわゆる若者と高齢者が都会に住んどう。ほいで、子育て世代は、やっぱり自然環境のええところで子どもは育てたらなあかんという気があるので、衛星都市型のところに住んでいるという住み分けをしているみたいで。それが今一番その方向に成熟した社会はなっていくであろうというお話でした。これが正解かどうかはわかりませんが、でも、実際にそのようになっているところがあるということでは、うちはどえらいチャンスやと思うんです。だから、企業誘致で職住近接のまちづくりということで市長は頑張っ

ておられて、私はすばらしいことやと思います。

ただ、もう一点あるのは、通う時間を短くしてあげたらええわけでしょう。橋本市に暮らして子育てをして勤めは通えと。ほんなら自然環境はよくて、さっきの朝からの話がありますが、子育てのしやすいところといったら、次の世代がどないかおろうかとしてくれるんじゃないですか。それも大事やと思うんです。だから、そういうことから言うても、これについては橋本市にとってええことはあるけど悪いことはあまりない話やと思うんで、協力してやるとは言うてるんですけども、1回聞きたいのは、過去に橋本市に家を建てたら特急電車の特急料金を2年間無料にしますということをやせへんのかいと言いにいった市の職員が1人おるんよ。今ここにもいますけどね。その人は偶然に橋本市へ住めと言うとんのに毎日南海電車を通ってるんですわ。1回その人の意見を僕は聞いてみたいんで、すいませんけども。

○議長（中上良隆君）理事。

○理事（塚本 基君）突然のことでえらい申しわけないんですけども、上手にしゃべれるかどうかわからんですけども、30分というのは現実非常にしんどいかなというふうに思います。聞くところによりますと難波自体も手狭になっておりまして、特急ですら40分、50分というようなことでございますので、非常にしんどいかなというふうな気持ちはするんですけども、要望する以上はしんどいというのを頭から外して要望していかんなんというふうなことになりますので、できるだけ30分台に近づけてというふうに本市としても要望していきたいというふうに思います。

今、先ほど岩田議員のほうから、特急をどないかせえと言うた職員がおりますということでしたけども、それにつきましては、木下市長が企業誘致を言われている以前の話でし

て、住宅が一向に売れていかないというふうなことで、南海電車に対して何らかの付加価値をつけて住宅販売促進になるようなことであるということでは、言わせていただいたこともあります。それで、そのときは市としても何らかのそれに助けになるような政策も打っていかんのかなということでは、言った記憶がございます。そんなんで、できるだけたくさんの方が住んでいただいて企業誘致もスムーズに行くということになりますと一番ありがたい話になりますので、難波から橋本まで30分台ということも本市も本腰を据えて南海に要望していきたいというふうに考えております。

加えて、我々企業誘致をさせていただいておる者にとりましては、なるほど電車、橋本－難波間の30分台も重要でございますけれども、それ以上に371号線の早期開通が重要なことというふうに思いますので、それも加えてそれぞれのところへ要望すべきであろうというふうに思いますので、そこら辺もそのようにしたいというふうに思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○議長（中上良隆君）11番、岩田君。

○11番（岩田弘彦君）企業誘致室で営業活動に一生懸命頑張っている、リーダーシップをとっている人の前向きな意見やったんですが、ところが、理事が何ぼ言うても、これは実現性は薄いと思うんですよ。唯一橋本市で一番強い人といったら市長ですわ。「おれは7万人のトップやから」と言って南海に行く。これが、商工会議所が何ぼ頑張ったところで、やっぱり市長がトップセールスで一緒に行ってもらわんと、「これは橋本市にどえらいええことや」と言うて行かんと、これは実現性は薄いと思う。だから、30分にならなくても、45分、40分になってもよろしいですやん、早くなるんですから。ということで、ちょうど14分でございますので、最後に市長のお気持ちをお聞

かせいでいただいて終わりにします。市長、よろしく申し上げます。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）岩田議員の質問にお答えしたいと思います。

南海の交通等々の問題でございますが、今年の2月12日でしたか、商工会議所の会頭と、そしてうちの企画部長も同伴いただいたわけですが、亘社長との会議を持ちまして、ほかの用件も二、三ございましたけれども、この問題もひとつ市としてお願いしたいということをお願いしてございまして、30分はどうか、いかがなものかは私らもわかりませんが、また尼崎のような大きな事故につながるような無理もいかんと思っておりますし、慎重に構えておらないかんと思っておりますけれども、実は岩田議員に言われた名張の桔梗が丘ですが、私も名張のほうの研究にも大分行きました。あの上に青蓮寺湖があって、その東に大倉建設が1,000戸以上造成したところへも行きました。それはなぜかということ、私の友達が、橋本市の連れやないんですが、私が市会議員の当時ですけども、橋本市を開発しておるけども、いろいろ相談があったんです。そうしたら名張も研究したと。そうしたら電車が非常に内容すべてにわたって南海よりすぐれておるなということと、それから車の場合はほとんど無料ですわな、あそこは。名張まで無料、名阪国道ですか。それで、会社を退社するとき家へ電話してこれから帰るさかいと言ったら、家の人らが、信号もあまりないし、「もう10分も変わらんと着く」と言うんですよ。橋本市の場合、車で行ったら、これから帰るよって当てにならんと。渋滞を起こして、信号も88箇所とか言うったわ。それを越えていかなければならない。距離は倍からあるらしいですな。ほんで名張へ大分

行かれましたんよ。そのグループらもみんな名張へ行かれてしもうた。それで私らも大分議論して、何とかということで道のことを。南海は、その後、複線化をどんどん進めていただいて、完成して今日にあるわけですけども、この間、アルバックのくわ入れ式にも私はあいさつの中で申し上げたのは、多くの企業の皆さんは、職住近接のまちという中で、橋本市にどれだけの潜在的な人がおるんよというようなこともよう言われるんで、足らんかったら1,000万人から大阪、京都、阪神にありますんやでと。何も橋本市から、おまはん、今、1万四、五千人大阪へ通つとるんですか。3分の2は電車、3分の1は車、これは実態わかつとるんですけども、大阪から勤めに来てもらうのもすいてますんよと私は言いました。おまはん、橋本市でもし人が足らん場合は、何も大阪へみんな行かんなんことないがな。大阪の人も橋本市へ、企業へ来てもうたらいいわけだから、それで電車も大事やし371号線も大事やということの議論はずっと進めてございます。

ただ、快速急行でとか、先ほど特急なんかは近鉄がサービスしておるわけだから、本当に低額にしたり、もう無料にしたり、迅速にせな、地域の発展というのは、これはうちだけと違うんですよ。阪神、阪急、もう皆取り合いですよ、人がね。それで、うっかりしとつたら離れられてしまうというおそれが多分にある。その点は、南海は非常に高野線に大分力を入れておりまして、先刻からもりんかんから病院までのバスがありますね。それで方向転換があります。それをさらに今度は企業誘致に向けて延伸してもらおうと。それで回数をどれぐらいにしていくべきかの協議ですね。そういうことまでも、今、入り込んでおるわけでございますので、あわせて大阪から大勢仕事に橋本市へ、昼間人口20万人ぐらい

にしたいと思っていますので。20万人は無理、ちょっと訂正しとこか。まあ昼間の10万人、それぐらいにひとつ馬力をかけていきたいなと思っておりますので、ひとついろいろ今後ともお力添えをいただきたいと思います。

特に商工会議所とは、補助金を出してそれでやってくれたらええわという問題やなくして、やっぱりリーダーシップをとって一体的になってしないと活性化につながらないということは十分承知しておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）11番、岩田君。

○11番（岩田弘彦君）ぜひともどうかよろしくお願いいたします。

最後に一言、担当窓口は企業誘致室に決まっておりますので、さっき室長が言うてましたんで、またその辺も決めていただいて、どうか市長、よろしくお願いいたします。

以上で質問を終わります。

○議長（中上良隆君）これをもって、11番 岩田君の一般質問は終わりました。

この際、2時5分まで休憩いたします。

（午後1時53分 休憩）